令和6年10月1日
NO.590
にじいろつみきネット
発行人 森田 信司　編集人 向井 秋久
大阪市中央区中寺1丁目1-54
TEL.06-6762-9001
FAX.06-6768-2426
https://www.niji-tumi.net/

保育おおさか

大阪府社会福祉協議会・保育部会（大阪府保育協議会）

さつまいも掘り
堺市
鳳西こども園

令和７年度 府施策に対する提案と予算要望

3年にわたるコロナ禍を通じて顕在化した生活課題や、長引く物価高騰の影響による生活困窮者への対応が求められています。また、少子高齢社会において身寄りのない方の増加による孤独・孤立の深刻化など、地域では複雑・多様化する福祉課題の解決も急務となっています。

こうしたなか、8月26日大阪府社会福祉協議会は、大阪府に対して令和7年度施策提案・予算要望書を提出しました。本紙では、保育に関する項目と大阪府からの回答を報告します。

（紙面割の関係により、一部文章省略・編集しています）

施策提案項目

要望：水道光熱費、燃料費、給食費・委託費、整備（老朽改築含む）費用の高騰ならびに感染症対策に必要な経費負担に対応するための社会福祉法人・福祉施設等への補助・支援策の積極的かつ迅速な拡充を講じられたい。

回答：保育施設等における物価高騰等の影響については、一定生じているものと認識しており、今後も続くと見込まれることから、本来であれば、国において、公定価格等の見直しにより一律の持続的な対策を行うことが望ましいと考えており、引き続き要望してまいります。

予算要望項目

要望：保育士人材不足の解消の一助とするため、子育て支援員の配置要件について、更なる緩和が可能となるよう、引き続き国に強く働きかけるとともに大阪府において子育て支援員養成研修を実施されたい。

回答：保育人材の不足は深刻な問題であると認識しており、保育の安全と質の確保のために、保育人材の確保・配置の増加が必要であると考えております。これまで、朝夕など児童が少数となる時間帯における保育士配置に係る特例として、

（2面に続く）

（1面からの続き）

保育士最低2人配置要件について、保育士2名のうち1名は子育て支援員研修を修了した者等に代替可能とする措置がなされてきたところです。子育て支援員により一層活躍の機会を持っていただくため、配置要件の拡充についての国への要望については、状況を鑑み検討してまいります。また、養成研修については、子育て支援員の主な従事先の多くが市町村事業として行われることから、地域の実情やニーズに応じて市町村において実施いただいているところです。府においては、単独での実施が難しい市町村を府がとりまとめ、複数市町村が合同で実施できるようサポートを行っており、引き続き、各市町村の取組みを支援してまいります。

府社協井手之上会長（右）から要望書を受け取る府の吉田福祉部長（左）

―・―・―

要望：職員の円滑な処遇改善に資するため、処遇改善加算を速やかに一本化するよう、国に強く働きかけられたい。また、全産業との賃金格差について、公定価格基本単価の向上を国に強く働きかけられたい。

回答：保育士の処遇改善については、平成27年度より、国制度における公定価格の処遇改善等加算において、職員の賃金の改善やキャリアパスの構築の取組に応じた人件費（賃金改善要件分）が導入され、賃金改善分として3％（職員一人あたりの平均勤続年数11年以上の時は4％）が加算され、平成29年度には5％（11年以上6％）に、令和元年度には6％（11年以上7％）に改正されたところです。また、平成29年度より職員の技能・経験の向上に応じた賃金改善（処遇改善等加算Ⅱ）が実施されております。さらに、令和4年2月から、賃上げ効果が継続される取組みを行うことを前提として、収入を3％程度（月額9，000円）引き上げるための補助が実施され、同年10月以降は公定価格において同様の措置が講じられております。府としては、国に対して、処遇改善等加算の充実など、更なる見直しを行うとともに、必要な財源を恒久的・安定的に措置するよう、引き続き要望してまいります。また、公定価格の処遇改善等加算の簡素化について、現在、国で検討が進められており、動向を注視してまいります。

―・―・―

要望：府や市の施設監査以外に保健所等外部関係団体から訪問検査があるが、事前に関係担当課と調整し、検査を受けた項目に関しては、施設監査の際に簡略化するなど負担軽減を図られたい。

回答：保育所の指導監査については、児童福祉法第46条、幼保連携型認定こども園については、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第19条で規定され、国の通知に基づき、施設指導監査を実施しているところです。保健所等の機関についても、それぞれの法令や通知に基づき、検査を実施しているところです。保育の現場において、過度な負担が生じないよう、それぞれの法令に支障のない範囲で調整などに努めてまいります。

―・―・―

要望：大阪府内の各市町村における地域区分について、各市町村において格差が生じることなく府内全域を都市部にふさわしい地域区分に統一されるよう国に強く働きかけられたい。

回答：子ども・子育て支援新制度における公定価格の地域区分については、これまで他の社会保障分野との整合性を踏まえ見直しされてきたところですが、未だ同一府県内での生活圏域等に応じた状況になっていない状況です。府としては、地域区分について、市町村の意見や地域の実情を踏まえた、柔軟な取扱いを認めるようこれまで国に要望してまいりました。地域区分の見直しについては、現在、国において議論されており、先日、国家公務員給与に地域ごとの民間賃金水準を反映させる「地域手当」の区分設定を、現在の市町村単位から都道府県単位にする方向で調整しているとの報道がなされており、その動向を注視するとともに、地域の実情が考慮されるよう、国に対し引き続き働きかけてまいります。

詳細は「にじいろつみきネット」またはQRコードからご覧ください。

ねっこと

私の園では秋に運動会を開催しています。昔から0―5歳の全園児が参加し、ダンスや競技、かけっこをしますが、昨今は異常な暑さで屋外練習が思うようにできなくなっています。

ここ数年、運動会の内容、開催時期、運動会の在り方自体を見直す必要があると痛切に感じています。「春に変更」「練習がほぼ不要の体育フェスティバルとして開催」「幼児だけの開催」と、さまざまな案が出ます。しかし、砂にまみれてリレーで一生懸命走る姿、職員と園児が一丸となった大きな声での応援、癒される乳児のかけっこやお遊戯、感動して涙を流す年長の演目には、保護者からの期待があります。そうしたなかで、何を残し、何を変えていくかを検討しなければと思っています。各園で悩まれている方もおられると思います。どう工夫されているのか、ぜひ教えていただきたいです。

（編集委員T・F）

みんなが主役！
明るく楽しくなる
保育現場の秘訣！

保育のまど 198

モチベーションの高め方

ほめ育シニアコンサルタント
中園 暁子 氏

今月は、暑い秋でも、冷蔵庫のアイスを切らしていても、モチベーション高く過ごすには？　というお話です。

◆モチベーションとは

モチベーションとは、本来、意欲を高めるもととなる「動機づけ」を意味する語なのだそうですが、スポーツや仕事の分野では、「意欲」「やる気」「士気」の意味で使われることが多いです。まず「意欲」「やる気」「士気」という意味でのモチベーションの高め方についてみていきましょう。

◆モチベーションの「もと」

あなたのモチベーションの「もと」は何でしょうか？子どもや家族、美味しいご飯、推し活、大切な人との時間……。それぞれきっとあることと思います。さまざまなものの力を借りてモチベーションが高いときはいいのですが、甘いものを食べても好きな時間を過ごしても、モチベーションが低いときってあります。そんなときはどうしたらいいのでしょうか。

◆やる気スイッチ

私は保護者向けの講演会で「やる気スイッチはありません」とお話しています。たいてい、やる気スイッチを押せば、行動に移したり頑張れたりする（または頑張ってくれる）と思いがちです。「やる気スイッチON→行動」の形です。

しかし、子どもたちを教えるなかで「順番が違う」と気づいたのです。子どもたちの勉強の例でいうと「知る→やってみる→できた（おもしろい）→もっとやりたい（やる気スイッチON）」のサイクルなのです。つまり、「行動が先」なのです。途中失敗したとしても「やってみる→失敗した→もう一度やりたい」となれば「もっとやりたい（やる気スイッチON）」のサイクルに入ります。「失敗した→もうやりたくない」のときは、大人や上司など、第三者のフォローが必要です。

やる気スイッチを入れるには「行動が先」ということは、モチベーションの高い・低いは関係ない、とも言えます。「やる気がでない」ときも、「まず動く」「やってみる」が大切なのです。あなたの部下のモチベーションが低そうに見えたとしても、「やらせてみる」がポイントです。あるいは「一緒に動く」も令和的でよいかもしれません。

◆動機づけ

次に、モチベーションの本来の意味「動機づけ」について考えたいと思います。「動機づけ」とは、「人が目的や目標などの要因によって行動を起こし、それを達成するまで保持・持続させる心理的な過程や機能を意味する心理学用語」。「ある要因」は、「外発的」と「内発的」に分かれます。

◆外発的要因と内発的要因

外発的要因とは、外部からの働きかけ、つまり報酬や評価、自分へのご褒美もこのなかに入ります。

内発的要因は、人の内面から生まれるものを意味します。物ごとに対する強い興味や探求心などに加えて、「成長したい」「変わりたい」など自身の決意も入ります。

外発的要因は、ご褒美に慣れてしまって物足りなさを感じたり、「もっと」と求めるあまり不満の原因にもなってしまったりする危うさがあります。

一方、内発的動機づけをもった人ほど強いものはありません。困難や少々の失敗があっても、自分で決めた「目的」に向かって突き進む強さがあるからです。

組織の成長のためには、チーム全員がそれぞれ強い内発的動機づけをもっている状態が理想です。

◆見守る挑戦

では、部下など相手に内発的要因をもってもらうためにはどうしたらいいのでしょうか。これはとても難しい課題です。「もて」と言われてもてるものではないからです。でも、方法がないわけではありません。

ひとつは焦らないこと。人が育つには時間がかかります。そして本人が目標を決めること。次に、チャレンジの場を準備することです。いきなり高いハードルは誰もがしり込みするので頑張ったらできそうな課題を準備します。準備する側は失敗した場合も想定しておきます。これは意外に大切なプロセスで、「できて当然」と思うと、相手の失敗が許せなくなって苛立ちにつながり、効果はゼロです。

私ごとですが、20～30人ほどの保護者の方の前で話すことに慣れてきた入社2年目、200人の保護者の前で話す機会がありました。あの時の緊張は今でも忘れません。私を起用した当時の責任者は、「いざとなったら自分が出るつもりだった」と後で笑って教えてくれました。自分がやってしまう方が早く、失敗のリスクが少ないことでも、相手の成長のために場を提供してみる。そんな場が挑戦の場となり、「できた→もっとやりたい」につながります。挑戦が次の内発的動機づけを生み、また機会をくれた相手への信頼につながります。見守る側は相手の可能性を信じて「見守るという挑戦」をしていただきたいと思います。

次回は11月号で「任せるコツ、任されるコツ」をお届けします。

⑥⑤① 保育園・認定こども園をたずねて

高槻市

自己肯定感を高める保育を

にじいろの森（もり）こどもえん

幼保連携型認定こども園

にじいろの森こどもえんは、令和2年、公立幼稚園の民営化に伴う園舎建て替えの後、園名や定員を変更して令和4年に開園しました。

同園は、高槻市の北東部、JR高槻駅から約2kmの場所に位置しています。地域には高校・小中学校、幼児保育教育の施設があり、地域内の交流が盛んです。

この地域は、新しいマンションが次々に建設され開発が進む一方で、昔からお住まいの方々も少なくありません。同園は、地域の方々に見守られながら地域の子育てを支援することも園として、日々邁進しておられます。保育教育目標のひとつ「健康で明るくたくましい子ども」を実践され、園児たちは、遊びのなかでお友だち同士の声かけや、「ありがとう」の言葉を大切にしています。職員の皆さんは、そのような言葉の響きに喜びを感じておられるとのことです。

▲広い園庭でのびのび遊べます

3歳児クラスからは、体育・サッカー・英語の特別保育がはじまります。5歳児クラスで行うお茶・お琴のおけいこは園の特色となっています。

園長先生は、「職員の保育観を高めながら、園児一人ひとりとていねいに関わり寄り添う保育を実践し、子どもたちの自己肯定感を高める保育をめざしています」と話されました。（編集委員S・K）

富田林市

自ら考え工夫して行動する

伏山（ふしやま）こども園

幼保連携型認定こども園

伏山こども園は、社会福祉法人光久福祉会が運営する8番目の保育園・こども園として、令和6年4月に定員110人で開園しました。同園のある富田林市伏山地区は、南海高野線金剛駅と滝谷駅の中間に位置し利便性が高いことから、近年、市街地の開発が進められています。既存の農地・集落と新しい住宅や道路、公園などが調和する緑の豊かな地域です。

保育の目標は、子どもが主体となって、自ら考えて工夫して行動できるようになることです。保育教諭は、子どもの「やってみたい」「もっと知りたい」という気もちを尊重し、すぐに答えを示さず、自分で探求できるよう導きます。今年はトマト栽培をはじめましたが、思い通りにはいきませんでした。そこで「どうしたらもっとよくなるだろう?」と子どもたちと図鑑を見て一緒に研究して、土を改良することにしました。こうして子どもたちと育てたトマトでソースを作り、ピザトーストを焼いたところ、子どもたちはたいへん喜んで何枚も食べてくれたそうです。

「子どもが笑顔になる保育、子どもを大切にする保育ができるように、職員がゆとりをもてるよう努めています」と園長先生が話されていたのが印象的でした。（編集委員K・M）

▶ガラス張りが美しく、開放的な新園舎

▲みんなでトマトソースを作りました！

さんぽ 有事の園の役割

日向灘を震源とする地震発生後、南海トラフ地震臨時情報（注意）が発令され、「南海トラフ地震」の恐怖を、より現実的に突き付けられたように感じました。

今回の報道で大阪北部地震を思い出しました。地震の影響で休園し再開すると、0歳児の保護者から「ガス・電気が止まっていた期間ミルクをなんとか水で溶かして与えていた」「不安でしかたなかった」と聞かされました。この経験を機に、物資の提供やLPガスボンベでお湯を沸かして提供するなど、有事の際にできることを改めて考えるようになりました。

恐らく今後も緊張が走るようなできごとやニュースがあると考えられます。そのたびに、改めて備蓄や体制の確認、福祉施設としての役割を考えることが重要だと思います。

（上野ひだまりこども園　H・A）

北摂ブロック